

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503486		
法人名	株式会社 ゆうらく		
事業所名	高齢者グループホーム「遊楽館」平岡		
所在地	札幌市清田区平岡4条1丁目12-4		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性と自由を尊重し、1日1日が明るく、楽しく、居心地良く、安心して生活を送って頂けるよう常に心掛けています。また、春は花見、夏はバーベキュー、秋は紅葉、冬は雪まつりなど、季節感が感じられて、入居者様、職員みんなが楽しかった、また行きたい、やりたいと思えるような野外レク、行事になるよう力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170503486-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な新興住宅地に建つ、2階建て2ユニットの事業所で、広い敷地内にある菜園は、種まきから収穫まで利用者の楽しみ事になってる。内部はゆとりある造りで、リビングには和室もあり効果的利用も期待できる。各居室も広く、仏壇やテーブル・ソファを置き、まるで自宅で過ごしているように、ゆつくりとくつろぎ自分らしく暮らしている。運営推進会議は2か月に一度定期的に開催され、ケアの充実と事業所の運営に役立てており、毎回消防署員が参加し防災について話合われている。管理者及び職員は、利用者個々にきめ細かな介護をし、信頼関係と馴染みの関係の中で共に過ごす日々を大切にしており、花見や紅葉狩り等の外出やレストランでの外食、継祭りや七夕等の行事の準備や参加を支援している。また個々の利用者の希望する体操や歌で、事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。清田区グループホーム交流会では全員で作成した折り紙で受賞する等、地域での生活を実感できる活動を、積極的に取り入れている。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営方針と経営理念を提示し、職員以外の方にも内容を共有して頂ける環境を作っている。ケアに関して定期的に振り返り、理念に沿ったケアが出来るか確認し合うよう努めている。	理念と運営方針は、玄関ホールに掲示すると共に、パンフレットにも明記している。全職員は会議等で確認し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	ホームの夏祭りの際に、近隣の方を招待し交流を図っている。地域のボランティアの利用や地域のイベントに参加するよう努めている。	町内会に加入している。敬老会や町内清掃等の地域行事に参加している。また事業所の夏祭りには、地域の人々が参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状としては活かされていない。今後、家族会等の企画を考えており、その中で出来れば良いと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様のことや、サービス等の報告を行い、意見を頂いている。消防署職員や消防団員の方より、災害時のアドバイスを頂き、参考にし実践出来るよう努めている。	定期開催している運営推進会議には、家族代表・地域包括支援センター職員・消防署員等が出席し防災計画等が話し合われている。議事録は整備し、利用者家族に送付している。	広く意見を伺う意味でも、利用者家族には運営推進会議開催日時の連絡と、近隣住民の会議参加を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組み等を積極的に伝えていない。	市や区の管理者連絡会議に出席している。消防や地域包括支援センターなど、関係機関の助言を得て、サービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。必要に応じてカンファレンスを行い、ケア方法について話し合い、身体拘束にならないよう検討している。玄関の施設に関しては、安全対策のため、夜間のみ行っている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっており、玄関は夜間以外施設していない。	利用者が、身体拘束や虐待を受ける事がないように、介護方法の工夫や、住環境の整備、サービスの利用等を支援するために、定期的な内部研修の開催と、全職員の外部研修参加を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、虐待に関して話し合う機会を設け、虐待防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度を理解し活用できるような研修等を行ってはいないため、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様と契約書、重要事項説明書、その他書類の読み合わせを行い、補足説明も行っている。質問にお答えし、理解を得て締結に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の苦情窓口を明記している。また、ケアプラン説明時に質問、要望等も合わせて聞くようにし、活かしている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で、意見や提案があれば、話し合う機会を設けている。また、年に1回個人面談を実施するよう努めている。	職員参加の全体会議は月1度開催し、意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況の把握に努め、環境整備にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は少ないが、力量を把握した上で、研修の参加を勧めている。また、研修後、必要に応じて、職場内に伝達する役割を担ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区の管理者連絡会に参加し、主催している勉強会に職員が参加するように努めている。その中で、情報交換するなど交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集、面談を行っており、少しでも不安が取り除け、要望に応えられるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族より、不安、要望等を伺いながら、本氏も含め不安なく過ごして頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前アセスメントを行い、ケアプランを作成。1ヶ月後に見直しをかけ、必要としている支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしのパートナーとして共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時または必要に応じて、電話連絡にて、状況を伝え相談し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が来訪されたり、電話、手紙等関係は継続している。馴染みの場所については、出掛けられるようご家族の協力を得て支援に努めている。	お盆には、家族と共に墓参りに出掛けており、豆まき・ひな祭り・七夕・お月見等の日本古来の美しい風習は、想い出を語る機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、食事の席も考慮している。リビングにて、利用者様同士歌を歌ったりみんなで楽しめる場を支援出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近くに来られた際に、ご家族と共に来館して頂けることもあり、関係が続いている方もいる。必要に応じて支援にも努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通してや、日々の関わりより把握に努めている。困難な場合はカンファレンスを行い検討している。	センター方式のアセスメントを活用し、個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握するよう努めている。困難な場合は家族や関係者に相談し、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関等から情報収集し、把握した上で、その人らしい生活が送れるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースを大切にし、理解しながら、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認したり、毎月のカンファレンスで話し合い、意見交換し、それをもとにケアプランを作成している。	日頃の関わりの中で利用者の希望を汲み取り、家族からも情報を得、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。変化が生じた場合は、随時見直しを図り実情に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入している。ケアプランの実践状況も把握出来るようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて対応している。マッサージ、デイケア等			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学校と連携を図り、資源回収に参加している。また、消防署へ入居者と廃油を届けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回、提携医による往診がある。また、ご家族の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診する対応も行っている。	利用者は馴染みのかかりつけ医を受診しており、通院介助もしている。医療機関とは連携を密にし、適切な支援を行なっている。事業所には看護師が勤務し利用者の健康を支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で週に2回ではあるが、看護師が勤務しているため、受診、往診時の対応を行っている。また、24時間オンコール体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族と情報交換し、またお見舞いなどで現状の把握をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての説明はしている。	医療連携体制の下、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成している。入居時に家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に普通救命救急講習は受けてもらっている。またマニュアルを置き全職員が把握出来るようにしている。定期的に訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い指導は受けている。地域との協力体制の構築は行っていない。	消防署員は運営推進会議に出席し、近隣住民との協力体制をすすめている。全職員は万が一の事態に対応出来るように、救急救命講習を受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴等を把握し、プライドやプライバシーを尊重した対応を常に心掛けている。	利用者一人ひとりの心身の状況を大切にされた対応に努め、各自の誇りや尊厳に応じた声かけや、気持ちの受け止めに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、表情、動作等からも思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室や買い物(洋服、化粧品等)へ行き、希望に添いながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺いながらメニューを立てている。食べられない物があれば、別メニューでお出ししている。野菜の皮むき、米とぎ等の調理や、食器拭き等の片付けをして下さる方もいる。	職員も共に食卓を囲み、利用者の嗜好・嚥下状況・体調等を観察しながら食事をしている。また利用者は準備や後片付けを、楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算までは行っていないが、バランス良く栄養素が取れるよう考えメニューを作成するよう努めている。量や味付けの工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、準備によって行っている。また必要に応じて、ブラッシングや仕上げ等の介助も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個別対応している。	利用者個々の、排泄パターンを把握し、プライドに配慮した声かけとさりげない誘導をしている。	利用者の尊厳や自尊心に配慮し、健康状況を見ながら、トイレでの排泄が出来るように、全職員で話し合い排泄の自立支援を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動で工夫している。また、個々に応じて、下剤を使用されている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があまりないため、間隔を見て職員が声かけし入浴して頂いている。入浴剤を使用する等の楽しめるよう工夫している。	希望する曜日や時間に入浴できるように支援しており、拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけの方法を工夫している。浴室内は温度差に配慮し、床暖房になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日一日の様子や、その時の状況、気分も考慮し、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の症状を把握し、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味のあることを探し、個々にできる事、やりたい事を行って頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出(花見、いちご狩りなど)を行い楽しんで頂いている。また、個別対応にて、外食なども行っている。	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身体の状態に配慮しながら、日常的に近隣散策や、菜園・花畑での作業に参加している。外食や行事外出の機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてお預りしているが、お小遣いを所持されている方もいる。買い物の際に、自分で支払ってもらったり、支払い分を職員が準備し、本人から払って頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をひいている方もおり、希望に応じ本人、または職員が代わりにかけている。手紙は本人が書き、職員と一緒に郵便局に行き出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等に暖簾やプレートの目印をし、混乱する事の無いよう支援している。また、季節のお花を装飾するなど、季節感を感じられるよう心掛けている。	玄関・ホール・リビング・キッチン・階段・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。各ユニットにはテラスやバルコニーがあり、日光浴や暖かい日の昼食・ティータイムに利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩コーナー、テラス等、入居者同士の談話の場となっている。また、自室にて読書、編み物など個々の趣味が行えるようにも工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの、大切にしていたものを持って来て頂いている。また、家具の配置等も本人に合わせ、御家族と相談しながら行っている。	広い居室には、馴染みの家具や生活用品を、それぞれの自宅から持参している。テーブルやソファを置き、家族が来てもゆっくり出来るスペースがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を見極めている。状況を見ながら、見守りし本人の力が発揮できるよう支援している。		